

絆

K I Z U N A

2023 APRIL

JAグループ青森 月刊広報誌 [916号]

4





今こそ力を合わせたい。
私たちの守りたいものが、
この先も続いていくように。

一人ひとりがつながり、お互いに支え合い、
誰ひとり取り残すこと無く、未来へつないでいく。
そして、みんなの暮らしを良くしていく。
JAの協同組合精神と、SDGsの理念は深いつながりがあります。

地域に根ざし、地域と共に歩んできたJAグループの取り組みは、
これまでと何も変わりません。

世界中がSDGsの目標達成に向けて力を尽くす中、
私たちの取り組みはさらに大きな意味と責任を持ちます。

JAグループは一体となって、食と農を基軸とした
総合事業のサービスを提供し、地域の食・農・暮らしが
いつまでも持続可能であるように、皆さんと共に歩んでいきます。
決して無くしてはいけないものを、しっかりと未来につないでいきます。
豊かて暮らしやすい地域共生社会の実現に向けて。
地域の皆さんと、手を取り合って。

JAグループが取り組む、地域に根差した活動

 あんしん

日本の食の
安全・安心に
努めています

 だいち

地域の農業を
コーディネート
しています

 暮らし

豊かで
安定した暮らしを
サポートしています

 たすけあい

高齢者や家族の
生活・健康を
支えています

 みどり

日本の美しい
自然・環境を
農業で支えています

 みらい

子どもたちに
食と農の大切さを
伝えています



耕そう、大地と地域の未来。JAグループ

Q JAグループ



食料安全保障の確立に向けて

～食料・農業・農村基本法の見直しをめぐる情勢について～

1. 政府・与党の動きとJAグループの取組み

昨年からの世界情勢の不安定化や気候変動、人口増加などにより、穀物や肥料・飼料・原料などを大きく輸入に依存している我が国は、食料安定供給リスクが顕在化している。

食料安全保障の強化は、国を挙げた課題として、施策の強化と再構築が求められている。農水省では、食料・農業・農村政策審議会において「基本法検証部会」を新設。早ければ令和5年5月にも基本法見直しや6年度予算に関する取りまとめを予定している。

JAグループとしては、中家JA全中会長が委員として出席し、これまで整理してきた政策提案や、基本法見直しにかかる基本的考え方等をふまえ、意見を発言するとともに、4月までに各都道府県で組織討議を行い、生産現場の意見・課題・要望を吸いあげたうえで政策提案を決定。全国大会の開催等を通じて、政府・与党への働きかけを実施していく方向である。

基本法見直しにかかる政策提案の主なポイント

- ◎「平時」を含む「食料安全保障の強化」を基本法の目的として明確に位置付け
- ◎輸入依存穀物（小麦・大豆・飼料作物等）や、米粉の増産、国産への切り替え
- ◎再生産に配慮した適正な価格形成の実現と国民理解の醸成・行動変容

2. 現状と見直しに向けてのギャップ

これまで食料安全保障を平時の問題としてとらえ、輸入リスクの対応や国民が健康な食生活を享受出来ることを位置付けて考えてきたか。ウクライナ危機で輸入に支障が出ていることや、有事の際に世界の物流が停滞しかねない現状である。

輸入依存体制の政策化（構築化）の推進により、安価な輸入品が価格の基準（農業者の我慢を前提にした制度設計）、国内で生産可能な作物の衰退化、国民所得の全体的な抑制傾向、地方経済の弱体化・疲弊化の進行を助長、コミュニティの損失・減少化を招いてしまった。逆に地方活性化のための対策に、力を入れざるを得ないことになってしまった。

国内では、コメや牛乳の生産を抑制し、農産物の販売価格に生産費の上昇が反映されない価格形成のしくみとなっている。国内生産が弱体化したら、国民は飢える。国内生産を支えることこそ、長期的・総合的には安くつくのではないか・・・ e t c。

3. 今後に向けて

これまで長年の時間をかけて形成されてきたしくみを、簡単に“正常”なしくみに再構築することは容易でないことが想定される。しかしながら、大規模な予算を確保し、生産者への直接払いで経営を支えるのも、一つの方策（生産が赤字とならないよう、経営面積や家畜単位を基礎として生産費上昇や価格低下に応じた加算をすべき）。そのためには国民理解の醸成は不可欠であり、各JAが各地域で、一人でも多くの理解者を増やし、一日でも早い行動変容につながっていくことを目指す。これらを充実させていくことが、ひいては地方の活性化対策、国民の食料安全保障につながっていくものと信じている。

※ 詳細は「食料・農業・農村基本法の見直し」、および「令和5年度食料・農業・地域政策の推進」に向けたJAグループの政策提案【説明資料】を参照のこと

JA 青森中央会

絆 4 目次 CONTENTS

巻頭言	1	実践農業者支援	16
フラッシュ	2	経営の窓口	18
インフォメーション	4	JA 青森NEWS	20
東北農政局通信あおもり	14	輝き・すすめ！SDGs・催事カレンダー	21
組織農政通信	15	誉（ほまれ）	22



バケツでできる！
身近なお米づくりを
体験しよう！

毎日わくわく！
稲の成長が楽しみ！

みらいのバランダや学校で
稲づくりにチャレンジ！

第35回

バケツ稲 づくり

申し込み受付中！



昨年はお茶碗
86,433杯分のお米ができました。
先着順で27万セットを配布します

*バケツ稲1セットから収穫できるお米の量を基準とした理論値です

お米や農業の魅力を
感じていただくため、
JAグループがすすめる
「みんなのよい食プロジェクト」の
一環として、実施しています。

耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ



詳しい内容、お申し込み方法、
お問い合わせは右のQRから
アクセスできます。



伝えたい人に、 伝える、伝わる。



JAグループの広報・PRは日本農業新聞の広告で。

広告媒体

日本農業新聞



全国のJAなどが出資し、農業の専門紙では唯一の日報として全国31万部発行※しています。農家組合員とJAグループ、地域をつなぐ全国メディアです。



※日本ABC協会認定
2020年1~6月平均販売部数

日本農業新聞Web



農業関係のWebメディアの世界でも有数のページビューがあり、(2020年度月間平均PV数100万)、農業関係者だけでなく、幅広いユーザーに閲覧されています。記事を配信しているYahoo!ニュースからも、多くのユーザーが流入しています。

フレマルシェ



JAのファーマーズマーケットを中心に全国で25万部を配布するフリーマガジンです。食や農業に関する多様なコンテンツを掲載。食に関心の高い30~60代の女性などの消費者がメイン読者です。

お問い合わせは、日本農業新聞広告部

✉ koukoku@agrinfo.co.jp

☎ TEL 03-6281-5810



THE JAPAN AGRICULTURAL NEWS

日本農業新聞



いえ **家** **活** **暮らし** を
グレートアップ

毎月の本誌と年6回の別冊付録で

読者の思いに寄り添い、よりよい暮らしの実現に向けた記事作りをしています

お申し込みは
お近くのJAへ

定価(税込)

- 普通月号 629円
- 付録月号(1・4・5・7・9月号)922円
- 家計簿付き12月号 1,027円



つがるロマン
TSUGARU ROMAN



青天の霹靂
SEITEN NO HEKIREKI



まっしぐら
MASSHIGURA



青森から3つの「美味しい!!」

青森米本部
aomori-komehonbu.gr.jp



©やなせたかし



全国旅行支援 4月以降も実施いたします(早期終了する県もございます)

出張に! 家族旅行に! お友達と! 春の旅を楽しみませんか。
農協観光では全国の宿泊・交通付(JR・航空等)宿泊パックを取扱いしております。
是非、下記までお問い合わせください。

※キャンペーン適用には、「ワクチン3回接種証明」または「PCR検査等の陰性証明」の提示が条件となります。

県により予算が無くなり
次第終了となります。
ご希望の方はお問い合わせ
ください。

割引金額(1人1泊あたり)

最大 **20% 割引!**

宿泊のみ(上限3,000円割引)
交通付パック旅行(上限5,000円割引)

さらに!! お一人様

平日 2,000円
休日 1,000円
クーポンプレゼント!

お申込み・お問い合わせは



観光庁長官登録旅行業第939号
ふれあいコーディネーター。エヌ・ツアー。
株式会社農協観光 青森エリアセンター
☎ 017-729-8800 FAX 729-8803
〒030-0847 青森市東大野2-1-15 青森県農協会館1F
総合旅行業務取扱管理者 鈴木 光輝
営業時間: 平日9:00~17:30(土日・祝日休み)
当面の間、毎週水曜日もお休みとさせていただきます



株式会社農協観光代理業
青森県知事登録旅行業者代理業第26号
JA ゆうき青森旅行センター
☎0175-72-1433



作品介绍

令和4年度

JA共済青森県小・中学生交通安全ポスターコンクール

(交通安全ポスター最優秀賞)



家の光協会会長賞(ちゃぐりん賞)

青森市立
浜田小学校1年
柳谷 虹奈



八戸市立
城下小学校2年
橋 優風



警察庁長官賞

弘前大学教育学部
附属小学校3年
木村 啓人



新郷村立
新郷小学校4年
佐々木 優二

家の光協会会長賞(ちゃぐりん賞)



大鰐町立
大鰐小学校5年
葛西 日彩



弘前市立
城西小学校6年
佐々木 慶次



青森市立
荒川中学校1年
荒川 由貴奈



JA共済連会長賞(佳作)

弘前大学教育学部
附属中学校2年
工藤 優奈



黒石市立
中郷中学校3年
佐々木 胡春